



新入生の皆さん、 ご入学おめでとうございます。

歯学部長 山田好秋

歯学科、口腔生命福祉学科いずれも1年間五十嵐キャンパスで過ごした後、旭町キャンパスで学ぶこととなります。クラブ活動に参加していますか？6年または4年の学生生活は長いようで短いものです。しかし、卒業して社会に出ると、大学在学中にできた友達はそれ以前の友人とはちょっと違ったつきあいとなります。どんなクラブに入りましたか？全学のクラブですか？歯学部のクラブですか？いずれにもメリットがありますが、できることなら全学のクラブにも入って下さい。理由は、新潟大学は総合大学であり、その人脈はこれからのあなた方の未来に大きく影響するからです。卒業すると歯科医師、歯科衛生士、社会福祉士、いずれも厚生労働省の管轄の国家試験を受験し、その資格のもとに働くこととなります。ですから、卒業して就業しても保健・医療・福祉関連という意外に狭い範囲でのつき合いとなってきます。全学のクラブで活躍すれば、そこでの仲間はより広い様々な分野に就業しますから、あなたが社会で活躍する際に発想を広げてくれたり、意外な人脈として支援してくれたりします。また、あなた方が社会に出て広く人材を我々に紹介してくれれば、歯学部も社会とより多くの接点を持ってさらに発展していくことができるのです。

昨年、新潟は水害および地震で大きな被害を被りましたが、幸い新潟市内は被害が小さく、遠方から入学された学生さんにはその痕跡すら感じられないでしょう。新潟は高齢者が多く、災害時のお年寄りの問題が大きく取り上げられました。災害の初期はけが人の治療や交通・通信などのライフラインの確保が急務です。これまではこの第1ステージをどう解決するかに注目が集まっていま

した。しかし、災害の影響は長く続き、被災者一人ひとりで異なった様々な問題が生じてきます。そして、歯科の重要性はこの第2ステージから始まります。新潟大学歯学部と明倫短期大学は共同で、自然災害時における歯科医療従事者の支援のあり方を検討するため、施設に入所されている要介護者の方への口腔ケアを中心とした支援活動と実態調査を実施しました。その結果、ライフラインが寸断されたことと、居室が危険な状態におかれたため、口腔ケアや食事介助に関する問題点が変わったことがわかりました。たとえば、水不足のため口腔ケアがほとんどできなくなったり、地震によるストレスの影響で歯が傾斜するほどの異常な噛みしめが見られた症例も報告されています。また、被害の小さかった施設でも、他の被災地区の要介護者を定員以上に受け入れる必要があったことが問題を増大させたこともわかりました。

このように新潟大学歯学部は介護の現場を正確に捉え、変革する社会に対応できる歯科医療・口腔保健福祉を模索しています。介護施設に従事するスタッフからは、①重度化を予防するための摂食嚥下訓練方法を知りたい、②専門職に摂食・嚥下機能を評価してほしい、③介護職として行える摂食・嚥下の評価方法を知りたい、④食事介助を行う場合の基準がほしい、⑤ケアが困難な人、口腔内の状態にあった口腔ケアの方法をアドバイスしてほしい、などの要望が出されています。新入生諸君、シラバスなどに提示されている歯科医師・歯科衛生士・社会福祉士としての専門知識・技術を身につけることはもちろん大切ですが、このような社会の様々な要望があるということも忘れないで勉学・学生生活に励んで下さい。



新潟大学歯学部入学おめでとう

新潟大学医歯学総合病院副院長 宮崎 秀夫

歯学科・口腔生命福祉学科にご入学の皆さん、おめでとうございます。

皆さんは人々の健康を護る職業を選び新潟大学へ入って来られました。大学病院は、皆さんがいつでも臨床学習を行えるよう準備して待っています。まずは、新潟大学医歯学総合病院の紹介をいたします。

医歯学総合病院は日本医療機能評価機構による病院機能評価認定を受け、歯科ではさらにISO 9000の認定を受けています。国際基準化機構から発行されるISO 9000を持っているということは、患者様に対する質の高い歯科医療サービスに対して、国際のお墨付きを頂いているということです。たとえ学生実習であったとしても、患者様と接する状況下では、皆さんも大学病院の医療者として自覚しておいてもらわないといけません。次の医歯学総合病院歯科の理念・キャッチフレーズを覚えておいて下さい。1) すべての患者様に不安なく満足していただける、予防・治療サービスが提供できる病院(患者様に慕われる病院)、2) 高度で質の高い歯科医業が提供できる病院(向上し続ける病院)、3) 地域社会に貢献できる病院(社会に開かれた病院)です。

次に、医歯学総合病院歯科の診療実績は全国国立大学の中でも上位に位置するということを伝えておきたいと思います。すなわち、歯科診療実績は一日平均600名弱の外来患者数と年間1,000件を超える手術件数(平成15年度)を誇り、全国国立大学病院歯科の中で高い評価を受けています。歯周組織再生誘導法、光学印象採得による陶材歯冠修復法、顎関節症の補綴学的治療、インプラント義歯の4つの高度先進医療を筆頭に、口臭、いびき、味覚、ドライマウス、歯周組織再生、歯周病遺伝子診断、金属アレルギー、インプラント、

摂食・嚥下リハビリテーション、歯の移植、心身歯科医学、顎堤形成など従来の歯科のイメージから想像もつかないような専門外来が多数あり、我が国の歯科医療をリードしています。

さらに、歯学部と病院歯科は臨床実践教育に力を入れているということを明記しておきたいと思っています。皆さんは新潟大学を卒業したら、複数の専門領域にわたる学識を統合する能力や常に自己研鑽し続ける能力を持ち、優れた医療倫理観を有する全人的な歯科医療人になるのです。医学部附属病院と統合した総合病院での歯科医療教育は、今では、歯科・医科の境界領域を含めて、全人的歯科医療を目指せる格好の教育環境になっています。

全国に先駆けて導入した入学直後の病院実習は現在行われていることと思います。歯学科では5～6年次の患者実習、充実した卒後の臨床研修プログラムを通して、力一杯臨床を行って下さい。臨床教育の核をなす総合診療部には5名の経験豊富な専任教員を配置しており、これも全国に類をみません。口腔生命福祉学科の臨床実習室はまもなく病院内に完成し、皆さんの登院を待ちます。口腔ケア・摂食嚥下、介護実習などともに歯科衛生士の主要科目である予防処置、歯科保健指導および歯科診療補助の実際をここでやることになるでしょう。

医療は、自然科学は勿論、人間科学の素養が不可欠です。長いようであつという間の学生時代に、幅広い交友関係―他分野との積極的なつきあいを通して、人とは何か、社会とは何か、自分の役割は何かを常々お考え下さい。患者様と接する準備が整いましたら、皆さんには、本病院を十分に活用していただきたいと思っています。